

幼 児 の 教 育

昭和三十三年二月

御國の子ども

こゝに遊んでゐる子ども達は、一人々々がみんな、御國の子どもである。おろそかには出来ない御國の子どもである。

この子達はみんな成人して、それ／＼の擔ふべきものを擔ふて御國の人となるのである。或るものは大きいものを擔ふであらう。或るものは小さいものしか擔はないかも知れない。それ／＼の分であり、分ちて擔ひあふ御國への務めである。御國の務めに大小はあつても輕重はない。將來それを擔ふべき者に差別をつけてはならない。身體の強弱はあり、才能の優劣はあつても、御國の子どもに差別はない。

御國の子ども嬉々として集ふ。こゝは御國の子どもの園である。一日もおろそかにしてはならない御國の園である。